これからの社会で求められる基本的能力とは
ー「1 年の計は元旦にあり」を実現するためにー

開倫塾
塾長　林　明夫

１．はじめにー1年の計は12月1日にありー

(１)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきましてありがとうございます。

(２)今日から師走、12 月に入りました。「1 年の計は元旦にあり」という言葉がありますが、私はそうは思いません。「1 年の計は 12 月 1 日にある」と私は考えます。来年 2008 年の計画は、できれば 12 月中に立てていただきたいと思います。12 月中に来年 2008 年の計画をきちんと立てますと、1 月 1 日からそれに沿ったことができます。ところが、1 月 1 日になってその年の計画を立てたのでは、「昨日のように今日があって、今日のように明日があって、あさってはない」というような大変な状況になってしまいます。

(３)そこで、「1 年の計は元旦にある」とするために、できれば 12 月 1 日、つまり今日から、来年 1 月 1 日からの計画、何をやろうかとか、どのような 1 年間を過ごそうかという計画を立てていただきたいと思います。

２．これからの社会で求められる能力とは

(１)この番組は、小学生、中学生だけでなく、大人の方もずいぶん聴いて下さっていると思いますので、今日は「社会人として身に付けておいたほうがよい能力とはどのようなことか」、「学生時代に、社会人になるために身に付けておいたほうがよい能力はどのようなことか」についてお話をさせていただきます。

(２)小学生、中学生、高校生、大学生、大学院生、予備校生、専門学校生、専修学校生は、社会に出てからのことを考えながら勉強していただければ、明日というものが見えてくると思います。仕事を始めてから「さあ、どうしよう」ということになると、「泥棒を捕らえて縄を綯(な)う」ようになってしまいますから、できれば仕事に就く前、つまり学校で勉強しているうちに社会人として身に付けておくべき能力は何かを考えて、職業とか生き方とかについて考えておくことが大切であると思います。

(３)これからの社会には、3 つの特色があります。１つは、知識が基盤になった社会、つまり知識が重んじられる社会です。そのような社会でどのような能力が必要かというと、いろいろある学校の勉強を正確に身に付けた上で、英語やコンピュータなども身に付ける能力が大切です。つまり、知識や情報を相互作用的に用いる能力が大切です。知識や情報、技術をお互いにうまく組み合わせながら、それを有効に使える能力が求められると思います。ですから、学校の勉強は学校できちんとやり、コンピュータの勉強は自分でやったり学校やいろいろなところで勉強する。そして、一番大事なのは英語ですので、これもしっかり学校でもやる、自分でもやるということです。これらをうまく組み合わせながら自分で用いる能力を養うことが大切となります。

(４)2 つめは、グローバル化というか、国境を越えて人やもの、お金、情報がどんどん行き交う社会になります。特に FTA（Free　Trade　Agreement、自由貿易協定）が ASEAN はじめいろいろなところと結ばれ、国と国との結びつきが強くなりますので、多様な集団で交流する能力が必要になります。自分と違うところで生きている人がいる、自分と異なる意見がある、自分と違う考えを持った人がいる、自分とは異なる価値観を大切にする人がいることを真正面から認め、その方々と交流できる能力が大切です。「多様性」を英語では diversity(ダイバーシティ)と言いますが、多様性を重んじる社会、認め合う社会を目指すことが大切です。

(５)そのためには、「寛容な心」が必要です。自分のことも認めてもらいたいけれども、自分と違った意見や考え方、価値観、生き方を「寛容な心」で重んじる社会が、これからの社会であると思います。これをグローバル化と言うのかもしれません。ですから、自分の育った、あるいは今居る集団とは異なった異質な集団の中で自分自身が活躍する能力、交流する能力を身に付けることが大事であると思います。これにも、先ほどお話したコンピュータや基礎的な学力、英語力が大いに関連します。ですから、それらを総動員しながら、質の異なる多様性が重んじられるグローバル化した社会の中で自由に交流できる能力を、ぜひ育んでいただきたいと思います。

(６)3 つめは、これからは少子化・超高齢化の社会になりますし、また、自由主義といいますか、自由を大切にする社会が大切です。ただ、自由を大切にする社会といっても何をしても自由なのではなく、法律や社会のルールの範囲内で自由に行動できることを目指すことが大切です。そこでは、ルールの中で自律した行動をすることが重んじられます。現代の日本は超高齢化社会です。今の中学生や高校生は、おそらく 105 歳から 110 歳くらいまで生きられると思います。人生 100 歳以上が普通になる社会となります。そこで、高い志を持った上で自分自身を律する、コントロールする、つまり自律した行動をしつつ、いつまでも若々しく生きること、いつまでも若々しく生きることにより、できるだけ社会に負荷をかけないこと、それによって一人ひとりが持続可能な社会の形成に寄与することが、日本のような超高齢化社会では非常に大事になってくると思います。ですから、自律的に活動する能力を、中学生、高校生、大学生、大学院生、専門学校生、専修学校生のうちに身に付けるよう努力したらよいと思います。

３．おわりに

(１)このように、これからの社会を生きていく上で必要となる最も基本的な能力というのは、「知識や情報、技術を相互作用的に用いる能力」、「異なる集団で交流する能力」、「自律的に活動する能力」の３つと考えられます。12 月 4 日になりますと、OECD（経済協力開発機構）の 2006 年度 PISA（15 歳時の学力国際標準テスト）調査結果の発表があります。各国比較で、世界のどの国がどのくらいの学力を有しているかの調査結果が発表されます。

(２)今日お話したのは、その PISA 調査の基礎となった基本的な能力とは何かという内容です。ですから、この放送内容を思い出しながら、12 月 4 日に発表される PISA 調査の結果をご覧になっていただけたらと思います。おそらく 5 日の新聞に大きく出ると思いますので、ぜひ興味を持って新聞を読んで下さい。日本も上位にいるといいのですが、そうでなければ今お話した 3 つのことを頑張ってやっていただければよいと思います。

－ 2008 年 10 月 1 日加筆－